

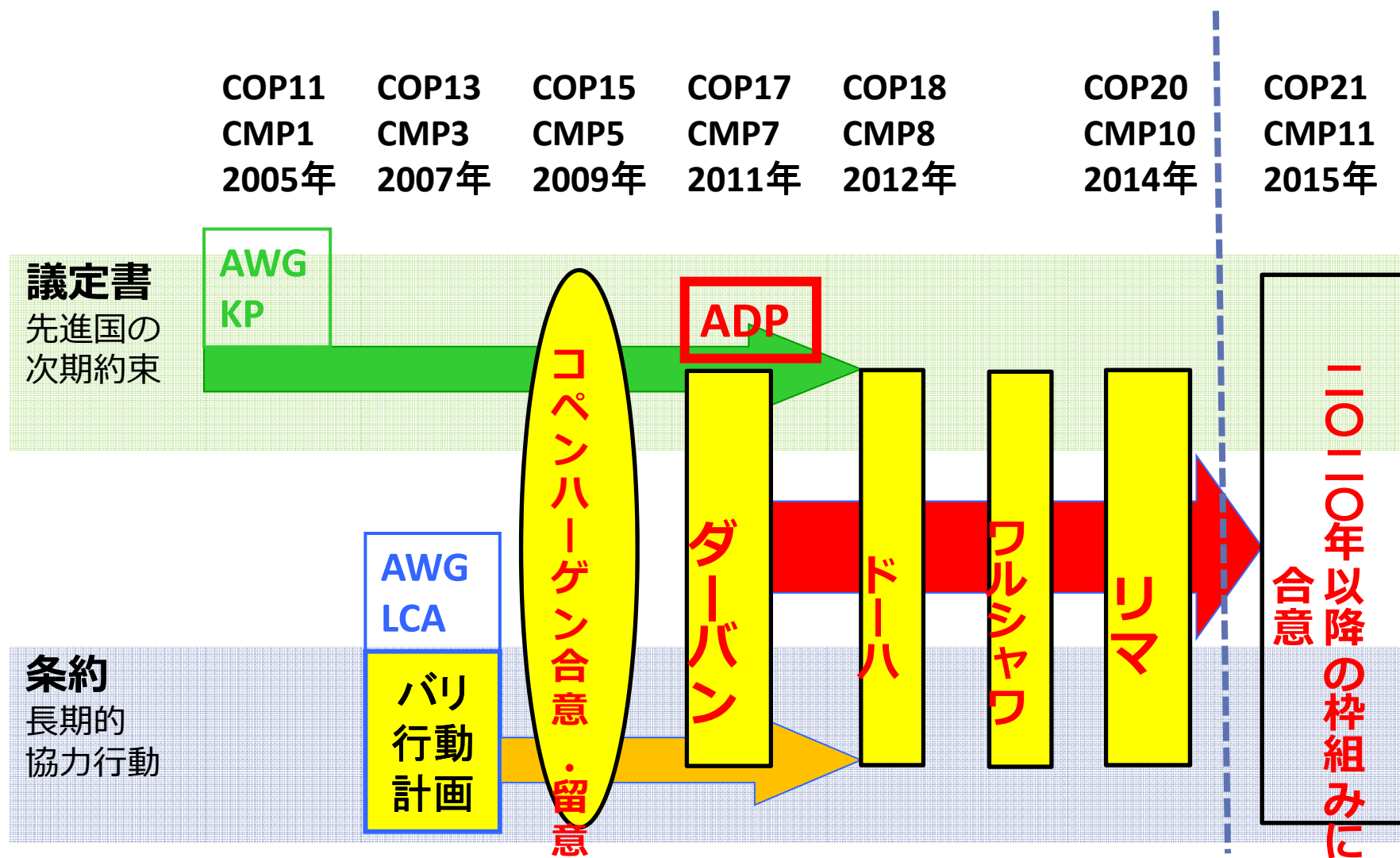
これまでの国際交渉 リマ会議までの経緯

2015年1月21日

地球環境市民会議(CASA)

国際交渉担当 土田道代

COP20(リマ)までと今後



ADP：行動強化のためのダーバン・プラットフォームに関する特別作業部会



ADP交渉と2°C目標

- ADPの2つの交渉テーマ(ワークストリーム)
 - ①WS1:2020年から開始するとされる**新しい法的枠組み**に関する議論
 - **すべての締約国が参加**する枠組み
 - ◆ 遅くとも2015年までに合意することをめざす
 - ②WS2:2020年までの**温室効果ガス排出削減レベルの引き上げ**に関する議論
- **長期目標「2°C」を達成するため、実効性を確保し、排出削減量ギャップを解消する**
- IPCCが提供する気候変動に関する**最新の科学的知見を交渉プロセスにインプット**する

COP16以降の流れ(1)

- 2010年COP16:「**2°C目標**」に合意
 - 工業化前に比べて、地球の平均気温の上昇を2°C未満に抑えるという目標
- 2011年COP17でADP設置
- 2012年5月からADP交渉開始 ADP1
- 2012年8月 ADP1非公式会合 ← ラウンドテーブル形式で交渉開始
- 2012年11月 ADP1-2、COP18と同時開催
 - **おおまかなスケジュール**に合意
 - 遅くともCOP20(2014年)には交渉テキスト案の要素を検討し、2015年5月までに交渉テキスト案を作成することに合意
- 2013年4月 ADP2
 - ✓ ex-ante clarity(事前の明確さ)を確保しようというアメリカ提案
- 2013年6月 ADP2-2
 - ✓ WS2に関するAOSIS提案
- 2013年12月 ADP2-3、COP19と同時開催
 - **事前協議型国別目標案(INDCs)の「提出時期」とその「情報」の確認を要請**
 - 2015年のCOP21に十分に先駆けて(出来る国はその年の3月末までに)提出するよう、全締約国に要請
 - 「情報」はCOP20(2014年12月)までに確認

COP16以降の流れ(2)

- 2014年3月 ADP2-4
 - TEMs(専門家会合)スタート
 - コンタクト・グループ設置を決定
- 2014年6月 ADP2-5
 - 自由協議型からコンタクト・グループでの交渉を開始
 - 交渉をより公式度の高いものへ、合意要素案作りへ

- ✓ WS2に関するAOSIS提案がベース
- ✓ 2020年までの排出削減レベル引き上げに関するベストプラクティスの共有など(テーマ例:再エネ、省エネ等)

2014年7月7日付 ADP共同議長によるCOP決定案(ドラフトテキスト)

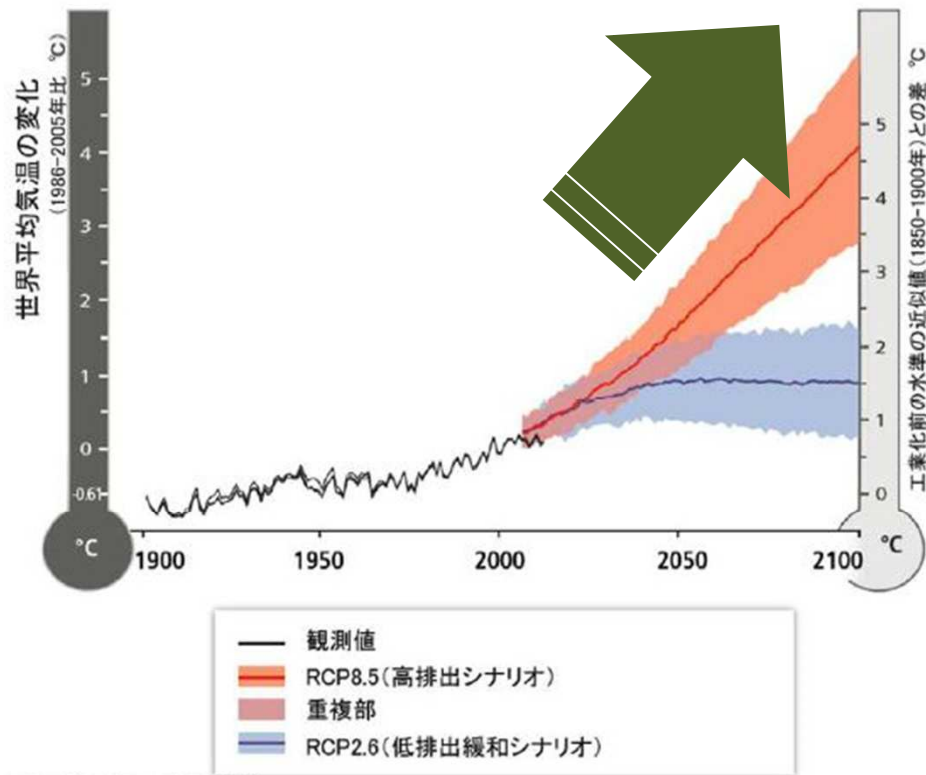
- 2014年10月 ADP2-6

2014年11月11日付 ADP共同議長によるCOP決定案(ドラフトテキスト)

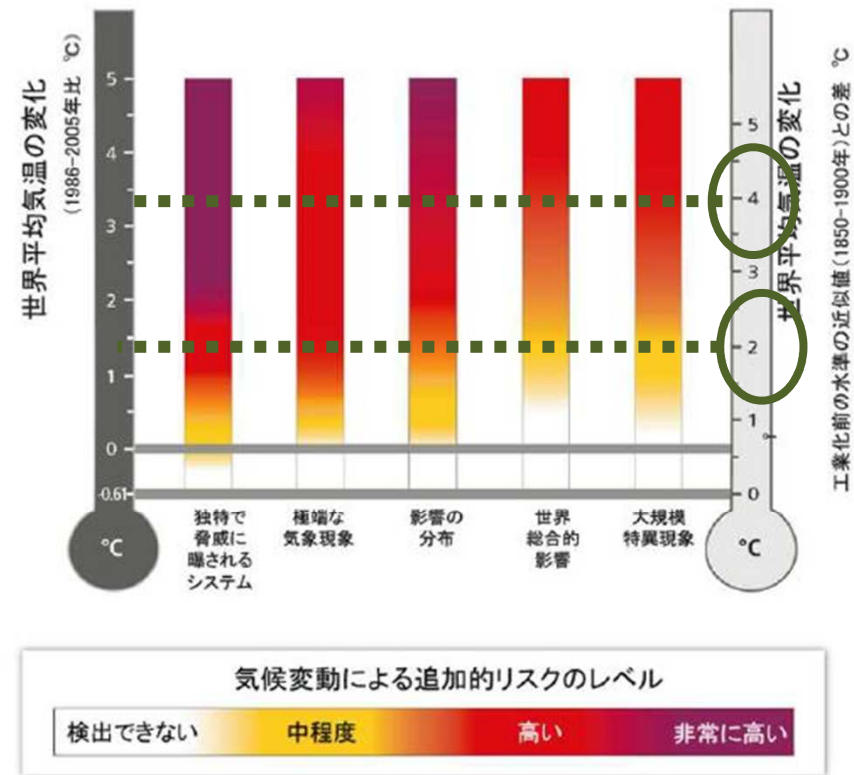
- 2014年12月 ADP2-7、COP20と同時開催(今回の会合)
 - INDCsおよびINDCsと一緒に提出される「情報」に関する交渉
 - 2015年5月までに準備を整えるとされる交渉テキスト案に関する交渉
 - 2020年までの排出削減レベルの引き上げ交渉

-
- 2015年2月 ADP2-8

IPCC AR5からの警告 4°C上昇へ？



評価に関するBox SPM.1図 1.



出典：環境省HP, IPCC第5次評価報告書第2作業部会報告書
政策決定者向け要約 環境省速報記(2014年5月23日版)よりCASA作成

2°Cを超えるまで**30年**足らず

- CO₂の累積排出量と平均気温の上昇は比例関係。
- 2°C未満に抑えるための、累積排出量は**約2兆9000億トン**。すでに**約1兆9000億トン**を排出し、**残された量は約1兆トン**。現在の排出量は年350億トン。

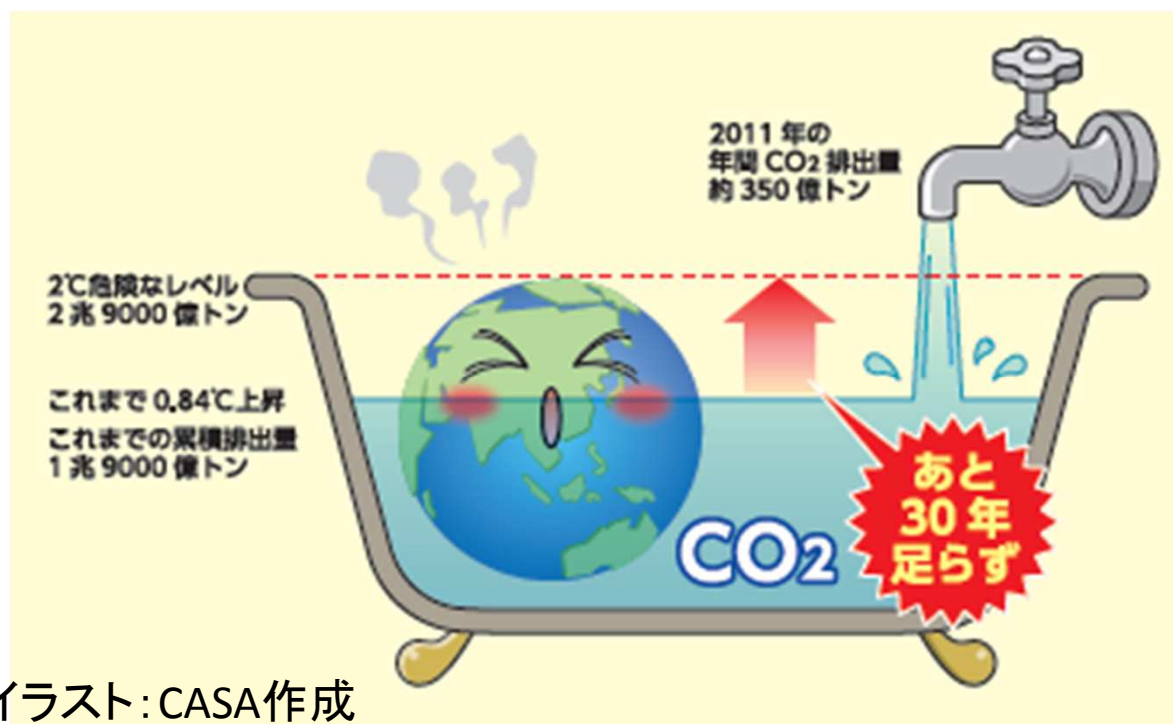


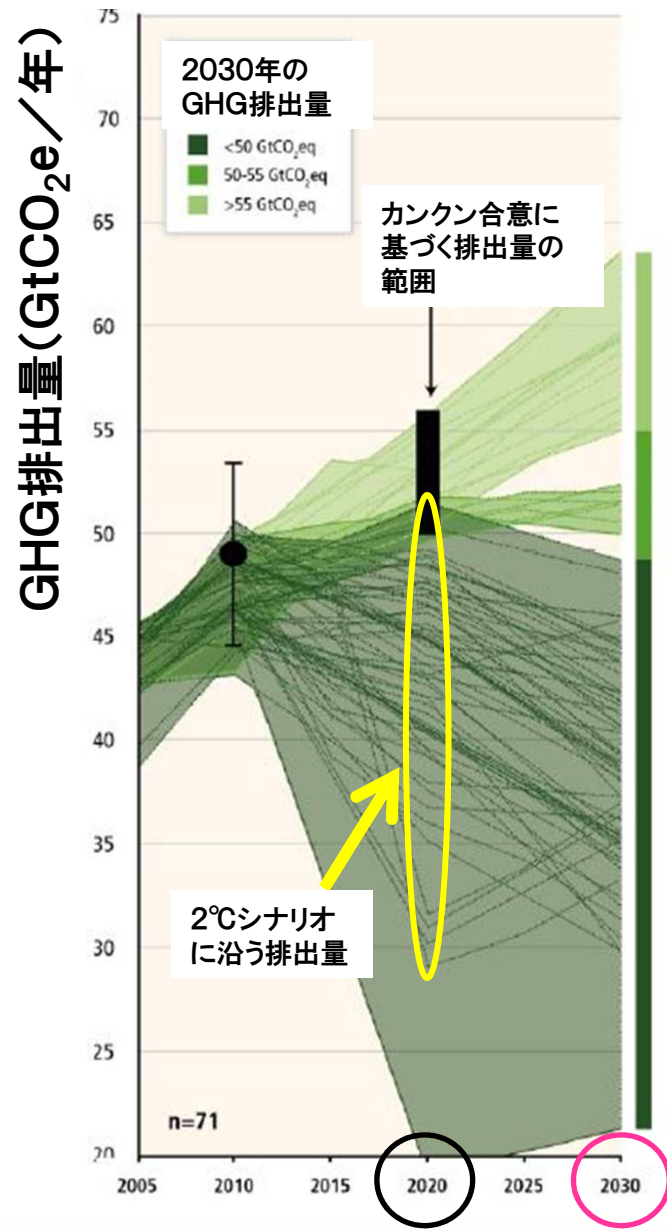
イラスト:CASA作成

29年で1兆トン。

出典: 気象庁HP, IPCC第5次評価報告書 第1作業部会報告書 政策決定者向け要約 気象庁訳(2014年3月6日版)より
※報告書ではギガトン(1Gt=10億トン)の単位で書かれています。

図: 2030年までのGHG排出経路

出典: IPCC AR5 WG3 SPMよりCASA作成



カンクン合意の自主削減目標・2030年までの対策の遅れがもたらすリスク

- カンクン合意に基づく排出量は、気温上昇を 3°C 未満に抑える可能性が高いシナリオに概ね一致。
- 2°C 抑制目標を達成する可能性を排除するものではないが、 $2030\sim 2050$ 年に大幅な削減が必要。
- 現行水準以上の緩和努力実施が 2030 年まで遅れれば、長期的に低排出水準へ移行する困難さは大幅に増し、産業革命以前からの気温上昇を 2°C 未満に抑えるための**選択肢の幅を狭める**(確信度:高)。

出典: IPCC AR5 WG3 SPMより

WS2: 2020年までの温室効果ガス排出削減レベルの引き上げ

	2020年
BaUシナリオ	59GtCO ₂ e
排出量見積り (median estimates)	52~54GtCO ₂ e
Likely chance of staying within 2°C target	44GtCO ₂ e
<u>排出削減量が 足りていない!</u>	8~10GtCO₂e 80億~100億トン (CO₂換算)

低炭素社会への流れ

- 2015年合意に向けて、野心的な排出削減を
 - 2014年9月国連気候サミット: 120カ国以上の首脳が政治意思を表明
 - EU: 2030年までに90年比で少なくとも40%削減(2014年10月)
 - アメリカ: 2025年までに05年比で26~28%削減
 - 中国: 国内のCO₂排出量を2030年頃をピークに減らす方針(2014年11月、米中共同ステートメント)
 - 日本は?
- IPCC第5次評価報告書が発する警告、最新の知見
- NGOからの提案「CASA2030モデル」ほか
- 2015年は最も重要な節目の年

ご静聴ありがとうございました

お問合せ・ご連絡先

地球環境市民会議(CASA)

TEL:06-6910-6301 FAX:06-6910-6302

E-mail: office@casa.bnet.jp

URL: <http://www.bnet.jp/casa/>

